

等々力防災Watch!

No.1

令和元年9月発行

帰宅困難者とは？

勤務先や外出先で地震などの災害に遭遇し、**帰宅が困難になった人**のことです。

帰宅困難者となってしまった場合、私たちはどのように行動すれば良いのでしょうか？

まずは、あわてず落ちついて行動することが大切です。
安全な場所に留まりましょう。



首都圏直下地震のような大災害では、**帰宅困難者が多数発生**します。

発災後すぐに帰宅しようとする・・・

- ① 歩道や道路に帰宅困難者が溢れ、警察や消防などの車両が速やかに現場に到着できず、救助・救命活動に支障をきたします。
- ② 徒歩帰宅中に余震等によって、二次災害にあう可能性が高くなります。

帰宅困難者の4つの行動ポイント

①むやみに移動しない

すぐに帰宅しようとする大変危険です。
施設が安全な場合、発災後3日間は勤務先などに留まりましょう。

②安否確認をする

災害伝言ダイヤル171などを活用し、家族や職場に安否確認をしましょう。
事前に連絡する方法を共有しておきましょう。

③正確な情報をキャッチして冷静に行動する

災害時はデマなどの情報が流れやすいため、正確な情報を入手し、どのような行動が安全なのか判断しましょう。

④お互いに助け合う

災害時では、助け合いが大切です。
また、一時待機できる施設では、要配慮者（高齢者、障害者、乳幼児、妊産婦など）を優先しましょう。

帰宅困難者に対する支援を行う施設があります。

帰宅困難者支援施設

帰宅困難者が発生した場合、区が支援場所として活用する施設です。飲料水やトイレ、休憩場所などの支援を受けられます。設置期間は発災から24時間程度です。

- 玉川地域の帰宅困難者支援施設
 - ・深沢区民センター（深沢 4-33-11）
 - ・桜新町区民集会所（桜新町 1-30-14）

一時滞在施設

帰宅が可能になるまで帰宅困難者を一時的に受け入れる施設です。食料や飲料水、ブランケット、トイレ、休憩場所や情報提供などの支援を受けられます。設置期間は発災から最大3日間までです。

- 玉川地域の一時滞在施設
 - ・園芸高等学校（深沢 5-38-1）
 - ・深沢高等学校（深沢 7-3-14）

災害時帰宅支援ステーション

東京都と協定を結んでいるコンビニエンスストアやガソリンスタンドなどの施設です。飲料水やトイレの提供が受けられます。

このような支援施設は他の自治体でも設けているので、自分の勤務先や学校付近の施設を確認しましょう。

目印のステッカー



日頃の備え

以下の防災グッズは帰宅困難者になった時に便利な物です。勤務先や学校に備えておくと、いざという時に役立ちます。

- | | | |
|-------------------------------|--|--|
| <input type="checkbox"/> 飲料水 | <input type="checkbox"/> 携帯ラジオ | <input type="checkbox"/> 地図 |
| <input type="checkbox"/> 携帯食料 | <input type="checkbox"/> ティッシュ・ウェットティッシュ | <input type="checkbox"/> 小銭
(公衆電話を利用するため
10円玉は用意しておく。) |
| <input type="checkbox"/> 懐中電灯 | <input type="checkbox"/> スニーカー | <input type="checkbox"/> 携帯電話等の充電器
(電池式、ソーラー式) |
| <input type="checkbox"/> タオル | <input type="checkbox"/> 寒暖対策用品
(夏：帽子、冬：カイロ・手袋など) | |

徒歩帰宅に備えて

どうしても徒歩帰宅しなければならない場合、以下のポイントを参考にしてください。

○帰宅ルートを決める

幅員の広い幹線道路をルートに設定すると良いでしょう。幹線道路は広くて歩きやすく比較的安全です。また、帰宅支援ステーションが整っています。

○何キロ歩けるか知っておく

東京都は午後6時に大地震が発生した場合、自宅までの距離が20キロを超えると「翌朝までの徒歩帰宅は困難」と想定しています。また、男性の革靴では15キロ、女性のハイヒールは4キロ歩くのが限度と言われています。はきなれたスニーカーを職場に備えておきましょう。

発行者：等々力地区区民防災会議
事務局：世田谷区等々力まちづくりセンター
TEL03-3702-2143 FAX03-3702-0942